

ふるさと再発見 第38回

Re-discovery Omihachiman

近江八幡偉人伝 ⑪

―東京から八幡へ―

「昭和」の新しい教育者―

谷 騰

たに のぼる



昭和学園の職員と児童
(中央が谷騰「近江八幡の歴史」第8巻)

前回は昭和初期の躰教育をけん引した西川伝右衛門家の10代目・西川吉之助よしのすけを紹介しました。今回は吉之助が呼び寄せた、当時「日本一小さい私立学校」の校長であった谷騰を紹介しします。谷は、明治25年（1892年）甲賀郡下田村（湖南市）に生まれました。滋賀県師範学校を卒業し、甲賀郡で小学校教員をした後、大正新教育運動のメッカである東京の私立成城小学校（現成城学園初等学校）で理科の専科教員として5年間在勤しました。

澄すみなど、篤志者とともに、土地も建物もすべて提供して、尋常科一年から六年までの寺子屋風の単級小学校を開校させ、その校長として谷を招いたのです。大正15年（1926年）4月、宇津呂村土田に開校した「日本一小さい私立学校」は、まもなく変わる新年号から「昭和学園」と名付けられました。教員は谷1人、児童は西川家の子2人、小野家の子3人を含む9人でした。谷は、成城小学校で行った欧米の新しい教育法であるドルトン・プランの授業を、昭和学園でも取り入れました。子どもは前週に自分たちで学習計画を立て、谷と相談して決定し、翌週

の午前中に各個人が自学自習を行います。午前11時30分からは集会を行い、全員の前で学習成果を発表しました。午後の労作活動は、全員で相談してテーマを決め、協働自治による活動を行いました。また、病弱児や身体に障がいのある子どもも、ともに生活して学習・労作を行いました。昭和3年（1928年）には、子どもたちが自ら編集した児童文集「こまどり」が発行されました。初代編集長は、吉之助の三女で聴力障がいがある、西川はま子でした。文集は、版画・

絵・童謡などを豊富に取り入れており、学園の子どもが自然体でのびのびと学ぶ姿が伝わるものでした。

現在のフリースクールのような形で先進的な教育が行われた昭和学園は、昭和13年（1938年）5月13日、谷の急死によって短い歴史を閉じることになりました。谷は、知識を習得した「物知り」になるよりも、「正しく、強く、美しく生きていこうとする力」を養いたいと自らの信念を伝えていきます。小さな学校のため、同校の卒業生はそれほど多くありませんが、障がいがありながらも教師になった西川はま子のように、彼らにその信念は継承されているようです。



「こまどり」お話号表紙
(「近江八幡の歴史」第8巻)

❗ 新型コロナウイルス関連の情報は、市ホームページをご覧ください

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、本紙掲載の催しが急に中止や延期になる場合があります。開催の可否は事前に担当課または主催者へご確認ください。また、最新情報は、市のホームページ <https://www.city.omihachiman.lg.jp/> で随時発信しておりますので、ご確認をお願いします。

人口と世帯

令和4年1月1日現在
()は前月比

総数	82,092人	(-14)
男	40,343人	(+3)
女	41,749人	(-17)
世帯	34,734世帯	(+3)

※外国人住民(40か国・地域/1,590人)を含みます。